

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和7年2月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694500267
法人名	社会福祉法人 みらい
事業所名	グループホーム やすらぎの里
所在地	鹿児島県始良市下名2992番地 (電話) 0995-66-2571
自己評価作成日	令和7年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和7年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎社会福祉法人みらい「グループホームやすらぎの里」は高齢者福祉施設の1事業所であり、併設事業所として特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、認知症対応型デイサービス、居宅介護支援事業所ヘルパー事業所、小規模多機能ホーム等があり併設事業所間での連携や災害対策や法人の行事等協力体制が整っており、又、地域における高齢者福祉の拠点となっている。
◎自治会に加入し地域の校区コミュニティー協議会や地域ネットワーク会議への参加、地域行事等に積極的に参加するなど、地域との関わりの中で地域住民との情報交換など行っている。
◎自然に囲まれ、中でも自慢は豊富な天然温泉が湧出することで、いつでも温泉浴ができるなど入居者より好評を得ている。また敷地内に足湯を敷設し当法人の入居者や利用者のみならず、地域住民や来園者も楽しめるようにしている。
◎自施設だけの生活にならないよう併設事業所の行事に参加したり、また地域の行事等にも参加することで、地域との繋がりが切れることがないように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、法人の関連施設や事業所が複数あり、災害時の協力体制ができています。
- ・自治会に加入し、地域に根差した活動を展開している。祭り等地域の行事に積極的に参加して地域との関係を大切にしている。
- ・天然温泉のある施設で、温泉浴ができることを事業所の自慢としている。
- ・コロナウイルス感染症等の感染対策の為、面会の仕方にも、色々と工夫して、家族や知人・友人等の馴染みの関係がとぎれないようにしている。
- ・食事は一部外部からの宅配サービスを活用して、職員の介護に携われる時間を優先している。
- ・勤務は3交代制を取り入れて、昼の休憩時間も交代で取っている。管理者は、職員の個人的な相談にも快く応じて、職員からの信頼もある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を日々の業務において形にできるよう法人全体の職員会議議題に明記、事業所に明記している。	法人と事業所の理念を玄関口に掲示し、パンフレットや重要事項説明書にも掲載している。新人の入職時や年度初めの研修時に理念の確認をしている。年2回の個人面談時にも確認をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺地域の行事や他の併設事業所が行う行事等に参加することで関係性が維持できるよう取り組んでいる。	町内会に加入し、回覧板で情報を得ている。令和6年度よりボランティアの受け入れや高校生・看護学生・大学生等の実習性の受け入れを実施。事業所独自で敬老会や夏祭り等に参加している。地域の方からの差し入れがある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方々の悩みや相談等が気軽に話せる場としていつでも来所出来るように対応している。又運営推進会議等で事例を通して認知症の理解のための報告、研修を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回地域の代表（自治会長他）民生委員、地域包括支援センターへ呼びかけ運営推進会議を開催し、事業所の運営状況及び地域の課題に対して協議している。	対面で2ヶ月ごとに運営推進会議を実施し、入居状況やコロナ感染状況・事故報告等を行い、参加者から地域情報も得られている。地域の方からの認知症に関する相談にも応じている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃より市町村担当者とは連携をとっており運営上の疑問、問題点等が発生した場合は速やかに連絡し、運営推進会議等で地域包括職員に相談、指導を受けるようにしている。	市役所の窓口に出向いて書類を提出したり相談をしたりしている。運営推進会議に参加してもらっている事で交流が出来る。市の研修はリモートや対面で参加して情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束廃止委員会を設置している。毎月定期的に会議を開催し、又法人全体で高齢者虐待や身体拘束廃止についての研修会を行うなど、全事業所の職員が参加する機会がある。	法人でマニュアルを作成している。身体拘束廃止委員会を設置し毎月委員会を実施している。法人で年1回、事業所で年1回研修会も開催し、職員会議等で内容を報告している。玄関は日中は鍵をしていない。外出希望者は、職員が同行して散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人全体で人権擁護委員会を設置し、毎月委員会活動を行っている。職員全体研修で虐待防止の研修に参加できている。様々な心身への虐待についての知識や防止について全職員に周知、徹底し虐待のないケアの実践に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を利用している入居者はいないが、福祉関係の資格取得のための学習において理解できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結、又その解除においては、重要事項説明書および利用契約書を用いて十分に説明を行い、理解納得を得たうえで契約を締結・解約している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日頃より入居者や家族と積極的にコミュニケーションを図り、ご意見箱の設置や、意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。又、満足度調査の結果から要望を細やかに確認し、実施状況をわかりやすくお知らせできる工夫を行っている。</p>	<p>利用者からは日常の生活の中で意見を聞いている。家族からは面会時に対話したり、アンケートを書いてもらっている。希望により居室での面会も出来ている。入浴の回数を増やして欲しい等の意見も聞かれ、対応している。家族の支援で外出もできている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>業務内容の見直しや改善すべき事案については管理者と常にコミュニケーションを取りやすい環境作りに努めている。又月に1回のミーティングにおいて全員の意見を出し合い、見直しの決定事項の共有を行っている。</p>	<p>毎月のミーティング等で意見を出し合っている。職員は話し合いの項目を事前にとりまとめ、価値的に行い記録している。昼休みは1時間取れており、休憩場所もある。職員の有給希望も対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格取得や自己研鑽の為の各種研修への参加、職員との面談の中で、様々な意見を聞きながら働きやすい環境、労働意欲や向上心を持てる労働条件の整備を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は事業所内外の研修への参加を積極的に進めている。毎月職員全体研修にて各テーマに沿った研修にも積極的に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県や地区のグループホーム協議会の主催する事業所同士の研修に参加し、意見交換を通してお互いの事業所の情報交換を行いサービスの向上に努めている。又法人内の研修に参加し交流を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、本人や家族の思い、生活状況を確認し必要に応じた支援を見極め、事業所でのサービス内容を共有し早急な対応が必要な時、相談者には可能な限り柔軟な対応をし、当ホームに空きがない場合は他の事業所のサービスを紹介するなどの対応、対策を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時、家族との面談を行い、家族の困っている事や不安、要望等をお聞きして家族の状況を把握することによって、より良い信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、生活状況を確認し必要に応じた支援を見極め、事業所でのサービス内容を共有し早急な対応が必要な時、相談者には可能な限り柔軟な対応をし、当ホームに空きがない場合は他の事業所のサービスを紹介するなどの対応、対策を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に家事を行うようにしている。掃除、洗濯たみ、配膳準備、茶碗洗い等、残存機能を活かし、本人の得意なことを活かせる場面を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要に応じてホームでの生活状況や健康状態を伝えて、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、日頃から家族とのコミュニケーションを図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の友人や親せきの方々に訪問してもらったりと馴染みの人々が来やすいようにしている。	家族・親戚・友人等の面会がある。玄関先に利用者の行事参加の写真を掲示している。年2回法人から便りを家族へ送付している。理美容は訪問がある。家族支援により馴染みの美容室や墓参りに出かけたたりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや洗濯物たたみ等の家事活動を通して利用者同士の関係が上手くできるように支援している。利用者間のトラブルが起きないようにその日の精神状態、感情に細心の注意を払いながら、座席の配置等にも注意を払っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設に移った利用者とは法人の行事等で交流、会話を交わしたり、入院となった時は家族へ状況報告や今後についての相談などに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で本人の思いや生活に関する意向についてコミュニケーションを通して把握できるよう努めている。	日々の関わりの中や夜間時寝る前に思いや意向を聞いている。意思表示のない人は、家族に聞いたり、関連の事業所を利用している時の情報等により把握している。得られた情報は職員間で共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に本人や家族と面談を行う中で、これまでの生活歴やグループホーム入居に至る経緯など聞き取りケアに反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムや心身状態を記録し、本人の全体像の把握に努めている。できることに着目し、家事や趣味活動等個別に対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や担当者会議等の場において本人並びに家族の双方に必ず生活に対する意向や希望・要望等を確認し、介護サービス計画書に反映させている。	本人・家族に意見を聞き、担当職員等の意見やカンファレンス時の話し合いの内容等で介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月ごとに見直しを6ヶ月ごとに行っているが、変化時はその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や生活記録には職員が支援した内容を経時的に記載。日々の関わりの工夫や取り組みがわかる具体的な会話のやり取りなどを入れた記録となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や状況により病院受診等必要な支援には柔軟に対応している。又、外出要望にも、見守り支援体制を整え対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との交流が進められていなかったが、今後は感染予防を行いながら、ボランティア活動を受け入れ、共同作業を取り入れるなど入居者の楽しみながらの生きがい作りに取り組んでいきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や本人、家族が希望する医療機関から定期的に訪問診療を受け、又、薬剤師による服薬指導や助言をもらうなど医療連携を行っている。又、受診に同行し、主治医に直接状態報告、内服調整等の連携が出来ている。	かかりつけ医の受診を支援している。医療機関へ受診に家族同伴で行ったり、訪問診療もある。薬剤師の訪問もある。24時間医療連携体制が取れている。緊急時は看護師も対応できている。必要時の歯科の往診や他科受診は家族が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師は入居者の疾病や症状について、日々のケアの中で情報収集し、症状が悪化しないよう主治医と連絡を取り対応している。又、状態悪化による受診の判断は主治医をはじめ併設施設医務課の協力を得ている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者が入院された際、家族とも連絡を取りながら症状の把握を行い、主治医にも経過報告しながら三者で連携を図り、調整している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期の在り方については入居時に指針により説明、承諾を得ている。現在、看取りは行っていない。重度化や終末期については主治医と連携対応を行っている他、併設施設と連携を行い対応している。</p>	<p>重度化や終末期の指針があり、入所時に家族へ説明し同意書を得ている。重度化時に主治医の意見を家族へ説明を行って、医療機関や施設等へ、今後の意向を家族に確認をしている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>各入居者の急変や事故発生を想定して連絡体制のマニュアル作成が出来ている。消防署の協力で心肺蘇生術の研修や、看護師による窒息時の対応、急変時の対応の勉強会を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署立ち合いの下、法人全事業所を対象にした火災発生時や自然災害時の対応についての訓練を実施している。又、災害が発生しても業務継続ができるようBCPを策定、随時の見直しを行っている。</p>	<p>火災や自然災害等の訓練を夜間想定で年2回消防署の指導のもと、法人全体を対象にして実施している。備蓄は法人全体でも事業所独自でも準備している。米・水・乾麺・レトルト食品等がある。オムツ・カセットコンロ・懐中電灯・防災用のラジオ等も準備している。事業継続計画（BCP）を作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>施設や事業所ミーティングで人権擁護、個人情報について研修を行い、職員の日々の声掛け、ケア対応での意識向上を図っている。個人記録の保管場所は鍵のかかる棚に保管している。</p>	<p>マニュアルを基に接遇・人権擁護・個人情報等について研修を行っている。排泄時の声かけ、入室時のノック等にはプライバシーに配慮している。申し送りノートを参考に台所で小声で申し送りを実施している。呼び名はさん付けで実施している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>入居者の希望や好みを把握し、一人一人に合わせた声掛け、職員側の押し付けにならぬよう複数の選択肢を提案し自己決定できるようにしている。意思表示の困難な方は表情や態度を読み取り表現しやすいように対応している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1人1人の体調に配慮しながら入居者のペースに沿って柔軟に対応し個別性のある支援を行っている。一人一人のやりたいことを把握し見守っている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>起床後の洗面と同時に鏡を見ながら髪の手入れや入浴後の洋服選びなど、利用者の好みを聞いて一緒に行っている。又本人や家族からの要望に応じて理美容の支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの行事食を用意するなど、食事を楽しむ支援を行っている。配膳準備、食器洗い、お盆拭き、テーブル拭きは率先して利用者が行っている。	朝・昼・夜食の配食サービスを活用している。味噌汁とご飯は事業所で作っている。行事食や誕生日食は事業所で作成し、個々の食事形態にも対応している。お盆拭きや台ふき等を利用者と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を把握、記録し、定期的な体重測定、血液検査で栄養状態を把握すると共に、摂取状況で形態や大きさの工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に口腔ケアの声掛けを行い、自力で出来ない方には声掛けや介助を行う。口腔ケアが困難な利用者には、用具を工夫して行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄のサインを見極め、様子観察しながらさりげなく声掛け、誘導を行っている。夜間の転倒が心配な方、排泄の失敗を気にされる方にたいしてはベッドサイドにポータブルトイレを準備している。	排泄チェック表により、排泄の時間やパターンを把握して日中はトイレへ移動しての排泄を心掛けている。布パンツと尿取りパットの人や昼も夜もポータブルトイレの場合や夜間のみオムツの人もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲用し、食事以外の水分補給が十分に出来るよう飲み物の種類を工夫し又、繊維質の多い芋等でおやつ作りを工夫している。毎日の運動も日課となっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々の体調の変化を確認しながら入浴支援を行っている。本人の希望や好み、羞恥心や不安に配慮しながら時間帯や順番は相談しながら対応している。	入浴は週2回から3回午前中に実施している。入浴拒否者は、声掛けを工夫している。入浴後の保湿剤の塗布をしている。入浴順番を気にする人もいて、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	機能訓練、レクリエーション、散歩運動、外出等の活動を通して規則正しい生活リズムを作り、安眠に繋げている。又、入眠時間までの会話での交流時間で穏やかな入眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の薬の目的を周知し、正しく服薬出来るよう一人一人の薬剤情報提供用紙を薬剤カレンダーにつけると共に台帳にファイリングしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味等を把握して本人が好きな事、出来る事を支援し感謝の言葉を伝えるようにしている。楽しみながら自分らしく生活できるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気分転換やストレス発散、社会見学、参加の目的で家族には受診や自宅への外出等の支援を行ってもらっている。又、職員同行で季節ごとのドライブで園外活動の支援を行っている。	天気の良い日は、敷地内の散歩に出かけている。年間行事計画があり、関連施設の車を借りて運転手付きで花見等のドライブに出かけている。家族の支援により医療機関受診や外出を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者は家族が金銭管理をしている。認知状況に応じて少額のお金を自分で管理し、少しの買い物時に自分で支払うことが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持参している利用者には適時に充電して受話が出来るように支援している。県外のご家族へは写真入りの手紙での報告と、電話での交流を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに季節行事に合わせた壁飾り等でレイアウトし季節感を取り入れている。温湿度計設置、日々の清掃、日中と夜間の照明を時間で調整し心地よい環境作りを行っている。	リビングは加湿器が3台あり、時間で換気をしている。温湿度計を設置し、エアコンで調整している。壁に季節ごとの塗り絵や折り紙、手作り等の作品を掲示して季節感を楽しんでいる。畳ペースがあり、それぞれが寛げる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やリビングにソファを置き、そこで気の合う入居者同士が談笑するなどくつろげる空間づくりができています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で本人が使用していた食器や生活用品などを持ちこんでもらい、自宅での生活に近い環境で生活が出来るような環境づくりに配慮している。	タンスやエアコン・ベッド・洗面台・クローゼット等の設置がある。寝具はリースで毛布等は使い慣れたものを持参。茶碗・箸・ラジオ・ぬいぐるみ・ハンガーラック等の持ち込みがあり、落ち着いた生活が送れるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、トイレ、浴室、廊下など殆どの場所に手すりを設置し、安全確保が出来るよう配慮している。又本人の活動性を維持するため、シルバーカー、車いす等、個人の身体状況に合わせて取り入れている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない